

平成23年度学校評価結果及び学校関係者評価結果

ア 自己評価結果

前年度の重点目標		専門分野（各教科・科目）に精通した人材を育てるだけでなく、一人の社会人としての素養を身に付けさせる。	
担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
教務	SSHの実施に向けての教務の対応	SSHに対応した時間割作成、成績評価などを検討し、適切に実施する。	SSH事業を推進し、そのための時間割作成、学校設定科目の申請、成績評価も適切に行えた。来年度は事業の定着を図る。
総務	SSH実施と年間行事計画の再検討。	SSH関連行事と、平成23年度の年間行事計画の日程確認、検討。	SSH事業とも関連する各種総務関係の仕事・行事を再検討し、校誌発行方法に改善を加えた。
生徒指導	正しい身だしなみの習慣化を図り、規範意識の確立を図る。	「生活指導強調週間」の設定と、スカート丈を標準に戻す指導の継続。	9月に生活指導強調週間を実施。朝の校門指導で多くの先生に協力いただいたが、徹底できなかった。
進路	生徒の状況把握に基づいて、生徒の自発的将来設計の確立と、職員による支援に資する体制を策定する。	進路諸行事の位置づけ、実施形態について、生徒状況の把握、保護者との連携等に鑑みて、適切な時期と内容を検討する。	夏の進路課題、模試の実施形態、PTA研修会などについての改善を試みた。3年間を見据えた指導の流れの検討を、さらに推し進めたい。
保健	校内美化を徹底する。	①月1回の大掃除を、重点項目をあげて清掃活動をする。 ②生徒保健委員会の活動を活性化するなかで、校内美化意識を向上させ、生徒自ら、校内美化活動を図れるようにする。	保健委員会等の活動を通じて、清掃に対する意識は向上した。今後は「清掃する」を「キレイにする」という感覚に変え、誰もが清掃が行き届いていると感じられるように美化活動を進める。
生徒会	生徒会活動に対する関心を高め、運営に参加する生徒を増やす。	生徒会行事が明和生全員の意思によって企画運営されていることを一般生徒に自覚させる。	生徒会執行部による広報活動等により、生徒会活動への関心を高める働きかけができた。運営に参加する生徒を増やすにはさらに努力を要する。
図書	1年生の読書指導の充実	「読書への誘い」推薦図書コーナー・「感動の一冊」コーナーの設置。「読書の記録」をつけさせる。	MC・美術等の授業による図書館利用にもより、貸出数は増加している。今後も各教科との連携をより密なものとしたい。
教育情報	校内ネットワークの拡張	・教員の常駐する部屋でネットワークが利用できるようにする。	化学・生物・物理準備室及び教育情報室については、本年度中に利用できる予定。西館については、来年度に拡張申請をしたい。
教育相談	生徒の学校生活への適応を支援する。	教育相談に関する研究や研修を実施することで、より適切な生徒支援を実現する。	相談部員が積極的に研究会や研修会に出席し、職員へのフィードバックに努めた。来年度は発達障害の生徒への具体的な支援方法について考えたい。
音楽	第60回記念定期演奏会を成功させる。	生徒全員で演奏する委嘱作品の発表や、卒業生を加えた演奏等、記念演奏を通じて、新鮮な感性を育てる。	日頃経験することの少ない新作の演奏等、生徒が各自の能力をそれぞれに発揮し演奏会を盛り上げた。

1年	生活のリズムを整え、基礎的な学力をつける。	時間を効率よく使い、日々の授業と家庭学習に取り組む姿勢を確立させる。	学習への取り組みや学校生活における時間の遵守等、全体としては、落ち着いた姿勢で送らせることができた。今後もそれらを継続していくことが課題である。
2年	学校の中核をなす学年として何事にも積極的に取り組む。	学習、修学旅行、学校祭、部活動等の活動において生徒が主体的に取り組めるよう指導・助言をする。	後半には多くの生徒が自主的に学習できるようになった。また、修学旅行・学校祭・部活動等にも主体的に取り組ませることができた。それでもまだ、受け身の生徒がいるので、今後も継続して指導に当たることが課題である。
3年	生徒の進路希望を実現させる。	日々の授業、学力補充、家庭学習を効果的に連携させる。	学校祭後、本格的に進路希望の実現を目指して取組ませることができた。最後まで粘り強く努力させることが課題である。
総合評価		専門分野に精通する人材を育て、社会人としての素養を身に付けさせる指導に組織的に取り組むことができた。SSH事業を核として、今後も取組みを継続していくことが課題である。	

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	SSHの活動状況及び生徒指導の在り方について
自己評価結果について	学習指導・進路指導は概ね適切に行われている。また、SSHについても初年度としてはうまくいったと思う。2年目、3年目が勝負であろう。社会人としての素養を身に付けさせる指導も継続してほしい。
その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に関わりのないことには関心がない若者が増えている。公益活動や社会貢献活動に若い頃から関わった方がよい。日本、世界を牽引する人が出てきてほしい。 ・コミュニケーションの下手な人が多くなっている。意識的に人と会って話すことを生徒たちにやらせてほしい。 ・社会人としての基礎である、人間としての礼儀をしっかりと教えてほしい。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	構成・・・学校評議員4名及びPTA会長・副会長 評価時期・・・3月1日